

昭和14年2月2日

気温がますます下がり軽装備も拍車かけ手足の感覚なく震えが止まらない。食料は田代温泉に握り飯3個忘れ、手持ちの1個と甘味料を分けて食べる。眠らないよう足踏みも夜明け前4人が倒れ眠ってしまう。午前4時、救援隊の明かりが山の頂に見え所在を知らせようと試みたが無残にも光芒は山の彼方へ没した。

午前6時、疲労の二人を残し鉾山方向へ13名は進路を取るが昨夜と同じ水門に着いてしまう。「柴森山」の広大な平地がリングワンデリング（方向を失い迂回を重ねる）を招いたらしい。再び鉾山方向目指すが、二人が仮死状態になり手当てしてる間に四人が吹雪の中に消えた。この四名は二人の介護も知らず山を越え沢を渡り、スキーもリュックも投げ捨て「七十森山」付近から約3時間を費やした午後2時15分頃、坪川採掘所に酷い凍傷ながら辿り着いた。

他方十人中、一人は沢に転落、もう一人はこと切れ目印を置き八名で猛吹雪の中、出発。12時頃に平地に着き休養の間に荒れ狂った吹雪も止み午後3時ころ山頂らしき所に到着。二人が偵察で山を下り2時間半、何と同じ水門に三度目の到着である。